

Monthly News on Astronomy from Nishi-Harima Astronomical Observatory

宇宙 **NOW** No.414 2024 9



パーセク : ペーパーレスで論文を読む
おもしろ天文学 : 南アフリカの天文学の歴史
学生だより : イベントの多い時期
from 西はりま : 西はりま天文台の星空日記
Astro Focus : Stars and Galaxies

斎藤 智樹
高橋 隼
杉村 風暁
大島 誠人
伊藤 洋一

ペーパーレスで論文を読む

齋藤 智樹

Essay

PARSEC

パーセク ～西はりま天文台エッセイ～

今さらながら、最近論文を紙に印刷する機会がめっきり減った。

我々研究者は、日々出版される論文に目を通し、自分の周辺分野での世界の趨勢を知っておく必要がある。世界には数多の天文学者がいるので、出てくる論文の数も相当なものだ。それらにざっとでも目を通すのは、それなりの労力である。

天文分野では、米コーネル大学によって運営される arXiv (アーカイブ) という仕組みが利用できる。これはオンラインで論文の別刷りをシェアするもので、自分に関連する分野の論文だけでも毎日数十の論文が投稿される。これらをざっと斜め読みしつつ、重要と思われるものをピックアップしてもう少し詳しく読む。

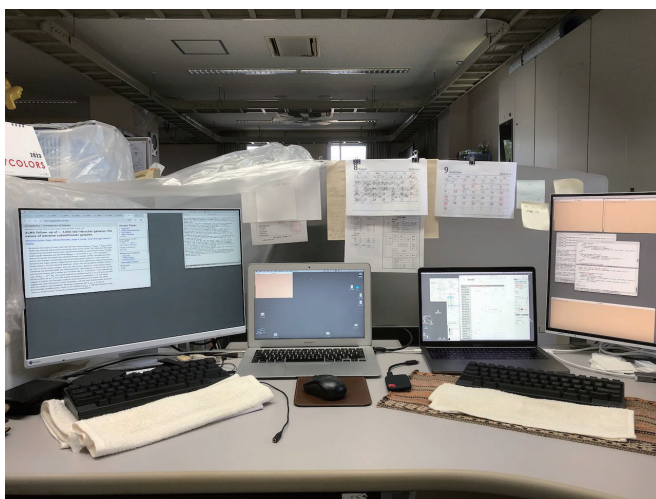
自分の研究 (観測、解析、論文執筆など) や雑用の傍ら、これを毎日やるのだから、全部を丁寧に読み込むことは不可能だ。かと言って機械的に読み流すだけでは読んだうちに入らない。エッセンスだけを抽出しつつ、重要な情報は記憶に留め、ときには引用文献も含めて読み込んで論理の流れを追認したりもする。

以前私は、重要と思った論文は常に紙に印刷していた。見えるところに現物を置くことで、忘却の彼方へ流れてしまうのを防ぐためだ。画面上で読むだけでは理解がおろそかになりがちなものを、強制的に視界の中へねじ込むのだ。そんなわけで私は、周囲で最も大量にプリンターを使う一人だった。

そんな私がペーパーレスに移行したのは、やはり計算機とネットワークの進歩によるものだ。読んだときのメモと論文本体を保存し、クラウド・ストレージに入れておく。そして常に同期して、複数持っているパソコンに保存しておく。ネットに繋がっているときもいないときも、これで同じ文献資料にアクセスできるのだ。

そんな言い方をすると、さも私が今風のサイバーな人間のように映るかも知れない。しかし私はいつも、手動でタイトル・著者名・要旨を書き写してテキストで保存し、強制的に脳味噌を経由させている。平安時代の貴族が借りてきた書物を書き写して読んでいたのと同じ原理だ。要するに、人は結局アナクロなのである。

(さいとう ともき・天文科学研究員)



私のデスクトップ風景。キータイプが無駄に多い(?) ので静音キーボードを使い、音が響かないよう下に敷物を敷いている。若干散らかっているのはご愛嬌。



ちょっと「コア」な天文学を楽しく！

おもしろ天文学

南アフリカの天文学の歴史

高橋 隼

この8月、国際天文学連合 (IAU) の総会 (General Assembly) が南アフリカのケープタウンで開催されました。総会がアフリカ大陸で開催されたのは初めてのことです。ケープタウンは、私が学生時代に半年ほど過ごした思い出の場所です。今回の総会にはぜひ参加したかったのですが、残念ながら現地参加は叶わず、オンラインで部分的に参加しました。総会では「南アフリカの天文学の歴史」というセッションも開催されていました。本欄でも、このテーマを取り上げてみます。

1. 大昔から

エジプト南部のナブタ・プラヤ (Nabta Playa) には約 7000 年前のものとされる太陽観測所の遺跡があり、アフリカ大陸の天文学は長い歴史を持ちます。夜空の天体の中ではプレアデス星団 (すばる) が、アフリカ各地で重要な意味を持ちました。アフリカ南部に住むコサ人 (Xhosa) やズールー人 (Zulu) は、プレアデス星団を「耕作の星々」を意味する isiLimela と呼んでいました。この星団が見えるようになる頃が、作物を植えるために土地の準備を始めるべき時期の目安になったのです。

また、アフリカ南部に住むナマ人 (Nama) の神話の中には、プレアデス星団も登場する面白いお話があります。この神話では、プレアデス星団は天の神の娘たちとされます。彼女らの夫 (アルデバラン) は、3 匹のしまうま (オリオン座の三つ星、ギリシャ神話では狩人オリオン

のベルト) を狙って矢を放ちますが失敗してしまいます。その落ちた矢が「オリオンの刀」に対応します。彼は手ぶらで家に帰ることはできず、かといって、怖いライオン (ベテルギウス) が睨みを利かせているので矢を回収することもできず、どうしようもなく立ち尽くしている…というお話です (図 1)。



図 1: ナマ人の神話を表す絵。左からプレアデス星団 (妻たち)、アルデバラン (弓を持つ夫)、オリオン座 (3 匹のしまうま、矢、ライオン) が描かれている。星の見え方が日本とは逆さまになっている。(c) SAAO

2. 近代天文学の始まり

南アフリカで初めての望遠鏡による天体観測は、1685 年にフランスの神父 Guy Tachard によって行われました。彼の一行はタイへの渡航の途中でケープタウンに寄りました。そして、木星の衛星を観測することで、ケープタウンが当時の地図上の位置よりも西へ約 300km ずれていることを発見しました。

また、フランスの天文学者 Nicolas Louis de Lacaille は、1751 年から 2 年間、ケープタウンで観測を行い、9766 個の恒星と 42 個の星雲を星図化しました。また、14 個の新し

い星座を設定しました。そのうちの一つ、テーブルさん座はケープタウンに実在する山に由来します（図2）。88個のIAU星座の中で唯一、実際の地名から名付けられた星座です。

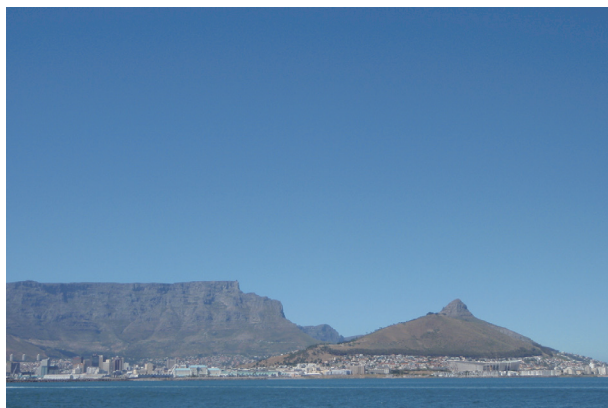


図2：ケープタウンのテーブルマウンテン（左側）。

イギリスによる植民地支配が始まり、1820年に Royal Observatory, Cape of Good Hope（喜望峰王立天文台）が設立されました。設立の主な目的は、南天の星図を作ることと航海のための正確な時刻を提供することでした。

John Herschel は1834年から4年間、ケープタウンで観測を行いました。彼は、父 William Herschel が作った星雲と星団のカタログに、約1700個の天体を追加し、General Catalogue of Nebulae and Clusters of Stars (GC) を作りました。後年、GCを基盤にして作られた New General Catalogue (NGC) は今でも天文学者に使われています。

3. 南アフリカ天文台の設立：先端天文学の拠点へ

20世紀中頃になると都市化が進み、光害と大気汚染のためケープタウンでの観測は難しくなってしまいます。ヨハネスブルグやプレトリアにあった他の天文台も同じ問題を抱えていました。そこで、光害のない内陸部のサザerlandに新たな観測拠点を作り、国内の主な望遠鏡を移設することになりました。合

わせて、Royal Observatory と他の2つの天文台が合併し、South African Astronomical Observatory (SAAO, 南アフリカ天文台) が設立されました。1972年のことです。SAAOは南アフリカの国立研究機関となりました。ケープタウンのRoyal Observatoryは、SAAOの本部となりました（図3）。



図3：ケープタウンにあるSAAO本部

長らく、サザerland観測所の主力望遠鏡は、口径1.9mのRadcliffe望遠鏡でした。2005年には、口径11mのSouthern African Large Telescope (SALT)の運用が始まりました（タイトル図）。この大きさは南半球で最大です。

現在、サザerlandは、様々な国の望遠鏡が集結する国際的な観測拠点になっています（図4）。名古屋大学や大阪大学の望遠鏡もあります。

電波天文学の分野でも、南アフリカは超巨大電波望遠鏡 Square Kilometre Array (SKA)の建設地の一つに選ばれ、その存在感を示しています。SKAは、多数のアンテナを広い範囲に配置し、最終的におよそ1平方kmの集光面積を持つ望遠鏡を作るプロジェクトです。

4. より良い世界をつくるために

最後に、IAU の機関の一つである Office of Astronomy for Development (OAD) について触れましょう。OAD は “Astronomy for a better world” (より良い世界をつくるための天文学) というビジョンのもとに、天文学を持続的発展のために使う活動を支援する機関です。OAD のホストとして SAAO が選ばれました。2011 年の立ち上げ以来、世界中で 220 以上のプロジェクトを資金援助してきました。

さて、冒頭に紹介した IAU 総会の実行委員長を務めたのが、OAD のディレクターである Kevin Govender です。開会式での彼のスピーチからは彼のビジョンと「愛」が伝わり、心を揺さぶられました。彼に向けられた満場の拍手を聞いて、かの地から天文学の進化が広がっていることを実感しました。今後も南アフリカの天文学に注目しながら、私も何かしら貢献できればと思っています。

(たかはしじゅん・特任助教)

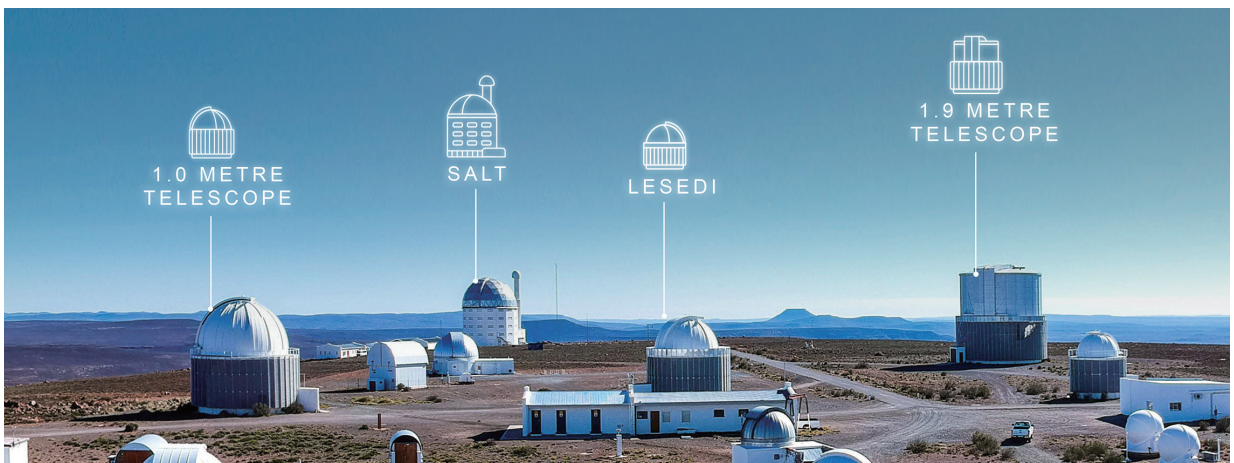


図 4：サザerlandの望遠鏡群の一部。 出典 <https://www.sao.ac.za/explore/our-telescopes/>

参考文献

“Africa’s Giant Eye: Building the Southern African Large Telescope”, David Buckley et al., 2005

“HISTORY OF THE SAAO”, <https://www.sao.ac.za/about/history/>

“African Starlore”, <http://www.sao.ac.za/public-info/sun-moon-stars/african-starlore/> (2010 年取得)

SKAO ウェブサイト <https://www.skao.int/en>

みなさまのご感想・リクエストをお待ちしています。

みなさまに親しまれる宇宙 NOW を目指して、みなさまのご意見をいただきたいと思います。ご感想や「こんな話を読みたい」といったリクエスト、友の会へのご要望、色々お待ちしております。宇宙 NOW 編集部までお寄せください。よろしくお願いいたします。

イベントの多い時期

杉村 風暁



みなさま、はじめまして。あんスタ(特にEden)が大好きな生粋のオタク大学院生です。タイトルにもある通り、7月~9月は高校生実習・大学実習・なゆたUM・スターダストなどイベントが盛りだくさんの時期です。そのため普段は研究・バイト・あんスタばかりの生活が、発表準備やイベント準備に追われる日々に変化します。推しのイベントが来ないようにとどれほど念じたことか。今回はそんなイベント盛りだくさんの7月・8月に私がどんなことをしていたかお話ししたいと思います。

まずは研究&発表準備です。取得したデータを解析するのももちろんのこと、発表がない時期に溜めていた論文を一気に読んでいきます。その後発表資料を作って発表練習をしたら(ぶっつけ本番の時もありますが)発表本番に挑みます。研究室の外に出て発表するのはとても勉強になるので、積極的に発表しています。

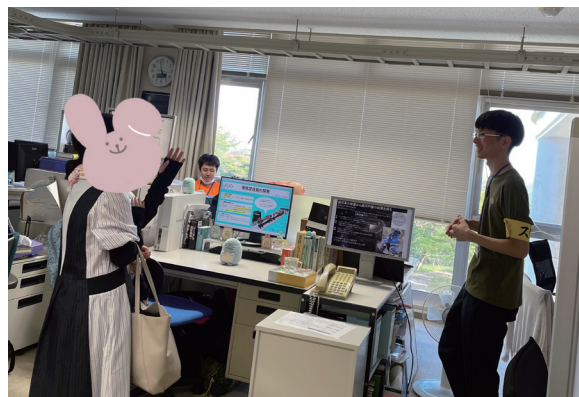
次にイベントの準備&本番です。スターダストでは学生もブースを持つので、6月ぐらいからブースの準備を始めます。企画が決まったら役割分担をして、各イベント当日に向かって準備を進めます。イベント当日は自分の受け持つブースにてお客様とお話します。精いっぱいお話ししたので楽しんでもらっていたら嬉しいなと思っています。最後にバイト&あんスタです。どれだけ忙しくなってもバイトやあんスタの時間は減らしません。いや、減りません(バイトはお金が欲しい、あんスタは日課がある)。

以上が私の7・8月の様子でした。このような感じで夏はいつもよりバタバタするのですが、それがとても楽しいです。研究室での生活もあと約半年、1日1日を精一杯楽しみたいと思います!ここまで読んでくださりありがとうございました!

(すぎむら ふうあ・博士前期課程2年)



ワークショップ「望遠鏡の視力を体験しよう!」



天文台裏側ツアー 研究室コース

西はりま天文台の星空日記

大島 誠人



このたび、著書が発売されることになりました。もちろん一人で書いたものとしては初の著書となります。タイトルは「西はりま天文台の星空日記」(あけび書房)といいます。

西はりま天文台は公開天文台と研究用の天文台の両方の面がある数少ない天文台です。ですから、この本でも、公開天文台と研究施設としての両面から西はりま天文台を紹介しています。前者の面からは、みなさんにも親しまれているなゆた望遠鏡をはじめとする施設や展示についての紹介や、季節ごとに見ることのできるお勧めの天体などについてお話しています。季節ごとになゆたで見るお勧めの天体については当初は倍以上の分量になってしまい、他のことを書くスペースがなくなってしまうため編集者の方と相談して大幅に削ることになりました。そのぶん、多くの人に親しまれている定番の天体を集めたつもりです。また、皆さんも一度くらいはふと疑問におもったことがあるかもしれない「有名なのになゆたの観望会では見ることがない」天体についても、なぜ見ることがないのか、その理由などもお話ししています。

後者の面は、普段はあまり見えないところのご紹介となるかもしれません。観望会に参加された方はご存じのように、21時をすぎて観望会が終わるとなゆた望遠鏡は研究観測のために使われ、建物にも出入りできなくなります。このときに、いったいどんな天体を観測して、どんな成果を上げているのだろうか? そう思われた方も多いのではないのでしょうか。そんな疑問にお答えすべく、ここ数年でなゆたを使って西はりまのメンバーが発見したさまざまなことのなかからいくつかをピックアップして、紹介しました。最先端の天文学の話はどうしても難

しくなってしまうがちですが、なゆた望遠鏡の「もう一つの面」を知っていただくせっかくの機会ですから、これまでどんな発見がなされてきているのか、できるだけわかりやすくお話ししたつもりです。こちらもいつきは大幅にページ数がオーバーになってしまい、仕方なく整理して残念ながら収録できなかった成果もあります。

執筆のお話をいただいたのはずいぶん前のことで、出来上がるまでにはかなり時間がかかってしまったのですが、当誌をお読みになっておられる方ならきっと面白く読んでいただけたと思います。また、星に関心のある中学生や高校生の方がおられたらぜひお勧めしていただければと思います。

9月16日に全国各地の書店で発売されますが、天文台の売店でなら、会員特典で10%割引で購入いただけます。

(おおしま ともひと・天文科学研究員)



A5 判並製 212 ページ 2,200 円



Stars and Galaxies

伊藤 洋一

今年もベトナムに行ってきました。西部のダクラク省バンメトート市にあるターイ＝グエン大学で、天文学に関する学部生向けのサマースクールが開催されました。そこで天体観測の実習を行ってきたのです。使った望遠鏡は、西はりま天文台にあったセレストロンの口径 28 cm シュミットカセグレン望遠鏡です。「スターダスト 94」というステッカーが貼ってあり、おそらく 30 年ほど前に購入した物です。少なくともこの 10 年間は全く使われていなかったの、有効活用するために、ビクセンの中古の赤道儀と合わせてターイ＝グエン大学に寄贈しました。夕方になると大学のキャンパス内で望遠鏡を組み立てて夜中に撤収するということを繰り返しました。ベトナムには天文学者が少ししかいませんが、天文学に興味を持つ若者はたくさんいます。ベトナムで天文学が花開くことを願っています。

昨年も同じようなサマースクールに参加しました。昨年はクイニョンというところに行きました。そこには口径 60 cm の天体望遠鏡がある観測所が新しくオープンしていました。その望遠鏡で太陽系外惑星のトランジットの観測をし、そこに勤めるトゥエ君が論文を書きました。

今回のサマースクールではトゥエ君がクイニョン天文台のことを発表しました。発表の後「今までに論文を出したことはあるか？」という質問がありました。トゥエ君は自慢げに「一本ある」と答えていました。良かったです。トゥエ君の論文は Stars and Galaxies という論文誌に掲載されています [1]。

さてこの Stars and Galaxies 誌、実は西はりま天文台で発行している査読誌です。7 年ほど前に創刊しました。天文学を学ぶ学生は日本全国にたくさんいますが、その多くは修士論文を書いて民間企業に就職します。修士論文には重要な発見が含まれていることもありませんが、たいいていは他の大学の人が読むことはできません。そこで、卒業した学生の修士論文を要約した論文を書きませんか、ということを用意して創刊しました。

今までにいろいろな分野の論文が Stars and Galaxies 誌に掲載されました。トゥエ君の論文が載ったことも、国際協力の一つとなったように思います。今年は第 7 号を発行します。原稿は 10 月 31 日締め切りです。良い研究成果をお持ちの方は、ぜひ論文にすることをご検討ください。

(いとう よういち・センター長)

参考文献

[1] Tue, N. V. et al., 2023, Stars and Galaxies, 6, id. 7



ターイ＝グエン大学で望遠鏡の試験をしているところ。このあと、スクールが来て、急いで望遠鏡を撤収した。

★1日(木) 明石高校、北野高校、教育センター附属高校の皆さんが来台。それぞれ、高橋特任助教、戸塚研究員、利川特任助教が対応。8月は実習のために来られる学校がたくさんなので、数多くの学校の方が来られる日もあって大変です。

★2日(金) 生野高校の皆さんが実習のため来台。大島担当。

★3日(土) 休日のため外出先でメールを眺めていたら、落雷でなゆたが「また」動かなくなった旨を知る。雷対策は徹底していたはずだが、と思ったらこれまでノーマークだった第3鏡(観測装置に応じて光の経路を変える部分)が動かなくなったとのこと。どうなるんだろうか……

★4日(日) 観測当番のため、夜になったの出勤。昼のうちに調査していたスタッフによると、導入の向きが少し合わず、第3鏡も回らないとのこと夜に

なっても調査継続。湿度が高いため観測ができないのがこのときばかりは不幸中の幸いか。

★6日(火) 三菱の技術者の方が急遽来台。嬉しいことに第3鏡を回せるようになった。少し操作方法が変わったが、これで観望会もなゆたで行えるようになり一安心。駆けつけてくださった技術者の方々、ありがとうございました。

★7日(水) 観音寺第一高校の皆さんが実習のため来台(～9日)。大島対応。西宮高校の皆さんも来台し、こちらは利川特任助教が対応。

★9日(金) オープンキャンパスに学生と本田准教授が理学部キャンパスへ。実習のためプール学院高校の皆さんも来台、こちらは高山

研究員が対応。

★10日(土) 落雷で故障していたエアコンが復旧。60 cm ドームは温度管理に苦労していたが、これで大丈夫そう。

★12日(月) スターダスト当日。講演は山口大学の藤沢健太さん。筆者は高橋特任助教・斎藤研究員となゆたの案内を担当。昼間、少し雲が多くて心配だったがだんだん晴れてきて安心。流星の数もかなり多く流れたようだ。

★14日(水) 久しぶりの雷。ここしばらく気配がなくて安心だったが、やはり夏は避けて通れないようだ。

★16日(金) 青少年のための科学の祭典が

書写キャンパスで開催、石田副センター長が対応(～18日)。

★19日(月) 同志社高校・福知山高校のみなさんが来台、それぞれ利川特任助教・高山研究員が担当。伊藤センター長は院試のため理学部キャンパスへ。今年も良い

院生が来るのでしょうか。

★27日(火) ノートルダム女子大の皆さんが来台(～28日)。戸塚研究員が対応。天文台の近くにまた落雷。場所が以前なゆたが壊れた落雷の場所に近かったため、伊藤センター長、高橋特任助教が慎重に動作チェック。雷対策のかいあってか、幸い今回は問題なかったそうで良かった。

★29日(木) 台風接近のため、宿泊の予約はすべてキャンセル。高山研究員が雷対策とあわせて台風対策も実施。

★30日(金) 台風のため高山研究員が関西学院大の皆さんの実習をリモートで実施。





Come on! 西はりま

11/9

なゆた20周年特別観望会

なゆたは20周年を迎えました。

記念イベントをひょうご環境体験館とコラボして実施します。

日 時：11月9日（土）13：00～21：00

場 所：ひょうご環境体験館、西はりま天文台

申込不要、費用無料、定員なし（観望会は予約要）

前半をひょうご環境体験館で、後半を西はりま天文台で実施します。

ひょうご環境体験館は、近くは通っても立ち寄られた方は多くはないかもしれませんが、形もユニークで、まず入り口に達するまでに色々なことが学べる仕組みになっている施設です。ぜひ、この機会に足をお運びになってみてください。

詳細はまだ検討中ですが、この日の観望会は一味違う観望会をお届けします。

友の会例会の日でもありますので、ご参加の方は、「観望会参加人数」に数字を入れてください。

みなさまのご参加をお待ちしています。

宇宙 NOW では友の会会員からの投稿記事を募集中です！

宇宙 NOW 編集部では友の会会員様からの投稿記事と投稿画像を募集中です。

募集の対象となるコーナーは次の4つです。

- ・ パーセク
星や自然、友の会のことなどを綴るエッセイ
[文字数 800 字程度。関連する画像、イラストなど 2 枚]
- ・ from 西はりま
友の会行事や個人活動の報告や紹介
[文字数 800 字程度。関連する画像、イラストなど 2 枚]
- ・ Come on! 西はりま
会員企画の会合や参画イベントの宣伝
[文字数 400 字程度。関連する画像、イラストなど 1 枚]
- ・ 投稿画像
天体写真や当施設を含む風景写真など
[JPEG。文字数 400 字以内のコメントと撮影データ]

投稿要件：

原稿は「テキストファイル」を電子メールに添付してください。字数制限厳守をお願いします。

画像やイラストは 1000×1000 ピクセル以上の JPEG。電子メールにファイル添付してご投稿ください。

掲載号にご希望がある場合は、その旨をメールにお書き添えの上、掲載希望月の1ヶ月前の15日までにご投稿願います。ただし記事の掲載に際しては必ずしもご希望に添えない場合もございます。原稿の訂正やページレイアウトはメールにて投稿者に送付し事前に確認をしていただきます。

採用された原稿は宇宙 NOW への掲載 1 回のみ使用いたします。

バックナンバーは PDF 化され Web 上で公開されます。

採用された方には記念品を贈呈します。

投稿は「氏名（よみがな）、会員番号」をお書き添えの上、下記のアドレスまでお願いいたします。

宇宙 NOW 編集部（メール） takeutchi@nhao.jp
電話によるお問い合わせ 0790-82-3886



西はりま天文台 インフォメーション



11/9

第 206 回 友の会例会

※友の会会員限定

日 時 11 月 9 日 (土) 18 : 30 受付開始、19 : 15 ~ 24 : 00

内 容 : 天体観望会、テーマ別観望会、クイズ、懇親会など

テーマ別観望会 : 未 定

費 用 : 宿泊 大人 500 円、小人 300 円

※友の会から宿泊料金の助成があり、シーツ代込の料金です。

グループ用ロッジ宿泊の場合の費用です。

家族等は別途料金が必要です。

詳細は事務局 (申込先) までお問合せください。

申 込 : 申込表 (右表) を参考に、下記の方法でご連絡下さい。

電話 : 0790-82-3886 FAX : 0790-82-2258

e-mail : reikai@nhao.jp (件名を「Nov」に)

締 切 : グループ棟宿泊、日帰り 11 月 2 日 (土)

家族棟宿泊 10 月 12 日 (土)

例会参加申込表

会員No. ()	氏名 ()		
宿泊棟	家族棟	ロッジ/グループ用ロッジ	
	大人	小人	合計
参加人数	()	()	()
宿泊人数	()	()	()
シーツ数	()	()	()
	男性	女性	家族
部屋割り	()	()	()
観望会参加人数	()		
テーマ別観望会の希望	()		

10/12

友の会観測デー

※友の会会員限定

日 時 : 10 月 12 日 (土) 19 : 00 受付

内 容 : 60 cm 望遠鏡やサテライトドームを使って様々な観測体験や天体写真の撮影をします。

費 用 : 宿泊 大人 1000 円、小人 500 円 ※朝食の申し込みは不可

※友の会から宿泊料金の助成があり、シーツ代込の料金です。

場 所 : 天文台北館 4 階観測室

定 員 : 20 名

申 込 : 申込表 (右表) を参考に、下記の方法でご連絡下さい。

電話 : 0790-82-3886 FAX : 0790-82-2258

e-mail : tomoobs@nhao.jp (件名を「Oct」に)

締 切 : 10 月 5 日 (土)

☆ 観測デーではお風呂の準備がございません。

観測デー参加申込表

会員No. ()	氏名 ()	
参加人数	大人 ()	小人 ()
宿泊人数	男性 ()	女性 ()
観望会参加人数	()	
当日連絡先	()	

10/15-18

施設休園

施設休園期間中は敷地内施設への入場はできません。

夜間の立ち入りにつきましても、進入路入り口やゲートが閉鎖されている場合、そこから先は進入禁止となります。あらかじめご了承ください。

15日 20時 30分
7日 21時頃
22日 20時頃



10月のみどころ

空の半分は秋になりました。5日、6日に細い月と金星が近づきます。14日には土星と月が近づきます。厳密には楕円に地球を回っている月が17日にもっとも近づきます。近頃では最大になると噂された紫金山・アトラス彗星ですが、崩壊中とかいややっぱり大きくなりそうとか色々言われています。順当であれば、日没後の西の空に12日～月末にかけて現れることでしょう。

今月号の表紙

「火星と木星の超接近」

日時 2024年8月15日 3時47分
カメラ PENTAX KP
レンズ タムロン SP AF17-50mm F/2.8 XR Di II
(28mm 付近で使用)
露出 30秒 絞り F2.8 感度 ISO1600

火星と木星の接近、スターダストのときにヒアデスと並んでいるのを見るまで忘れていたのですが、せっかくなので最接近日に撮影しました。明るさ的には横のアルデバランがちょうど「アンタレス」役でしょうか。